

広島高速道路公社における取組状況について

1 要旨・目的

広島高速道路公社において、高速5号線シールドトンネル工事の契約事案を踏まえ、再発防止や公社改革の取組を進めており、現在の取組状況について報告するとともに、本年4月から牛田地区の掘削に着手しているシールドトンネル工事の進捗状況について報告する。

2 現状・背景

広島高速道路公社においては、公社ガバナンスの強化・将来を見据えた組織づくり・職員が幸せを感じる職場環境の整備からなる「公社改革の方向性」を令和2年12月に公表し、この方向性に基づく具体的な取組を順次進めているところである。

シールドトンネル工事については、地表面変位の抑制など住民の皆様の安全・安心の確保について十分な対策を取りながら工事を進めることとしている。現在は、シールドトンネル工事の延長約1400mのうち二葉の里側から約640m地点に到達し、計画的なカッター交換を行っているところであり、今後、住宅地の直下の掘削に入っていく予定。

3 概要

(1) 対象者

—

(2) 事業内容（実施内容）

ア 公社改革等の取組状況

「公社改革の方向性」に基づき、監査室の設置、プロパー職員の他団体への派遣研修、事務システムの導入などの取組を進めており、再発防止策の取組については、入札及び契約の監視体制を強化するために設置した入札監視委員会を8月3日に開催した。

イ 牛田地区におけるシールドトンネル工事の掘削について

牛田地区の掘削に着手して以降、住宅地までの間でカッターの計画交換を4回見込んでいたが、掘削作業中の金属探知機の反応に対し点検を行った結果、カッターに欠けや偏摩耗が確認されたため、計画交換に加えて臨時のカッター交換を5回実施している。

硬質な岩盤の掘削や臨時のカッター交換によって予定以上の時間を要しているが、公社においては、引き続き、地表面変位を管理値内に収めるよう万全な施工管理を行いながら、住民の安全・安心の確保を第一に掘削を進めることとしている。

(3) スケジュール

シールドトンネル工事については、カッター交換が完了した後、10月上旬から住宅地の直下の掘削に入っていく予定。

(4) 予算（単県）

広島高速道路公社出資金・貸付金 1,750百万円

(5) 今後の対応

引き続き、事業主体である公社や広島市と連携し、公社改革等の取組を進めるとともに、住民の不信や不安を可能な限り払拭できるよう、適切かつ丁寧な対応に努めながら、着実な事業推進に取り組む。